

いよいよ開通『ゆいレール』

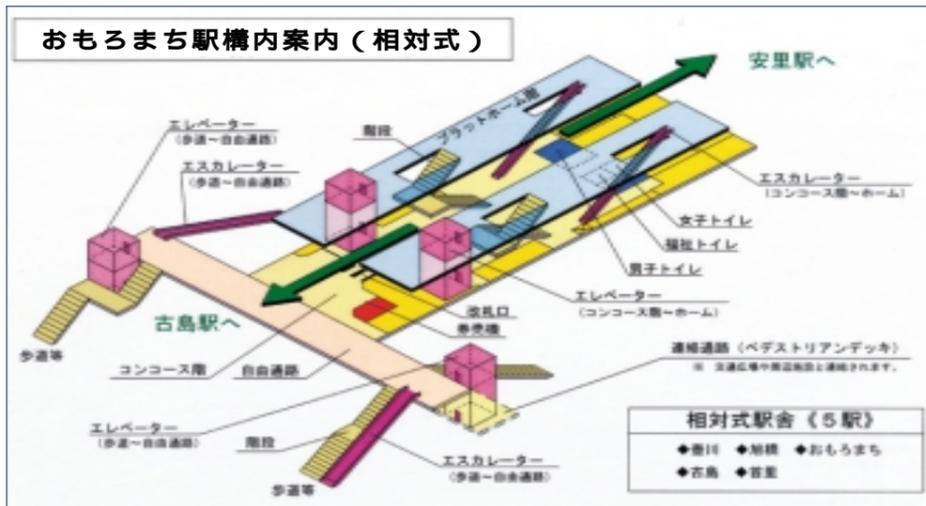
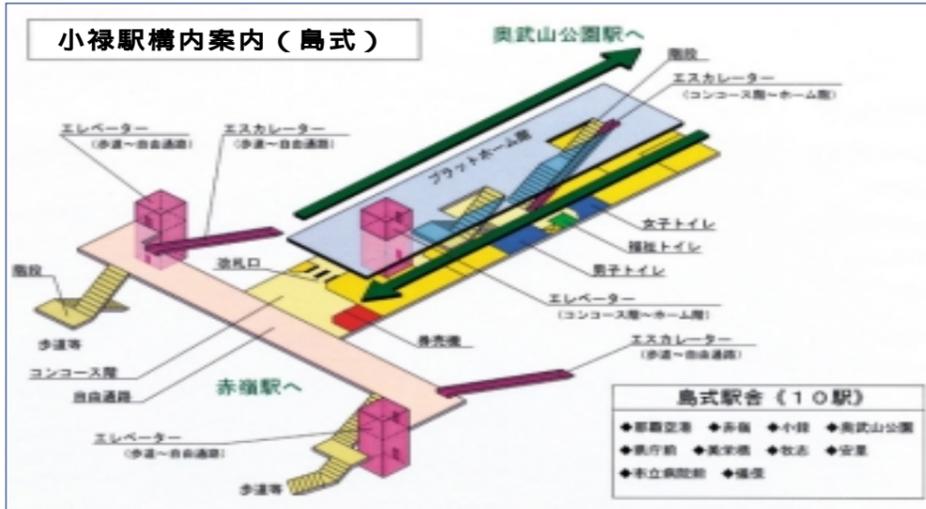


これまで、どこへ行くにも渋滞していた県都那覇のまち。空の玄関口である那覇空港、オフィス街やショッピング街、住宅街、新たな商業業務地区の新都心、そして世界遺産のある古都のまち。さまざまな顔と風景のまちがありますが、これからは『ゆいレール』（愛称）で一本に結ばれ、今までよりもスムーズな移動が可能となります。『ゆいレール』がまちと人、人と人をつなぎ、沖縄のまちづくりの新しい可能性を広げます。

お問い合わせ 都市モノレール建設室 TEL. (098)866-2430 FAX. (098)869-8040

駅舎構内の案内

『ゆいレール』の駅舎にはプラットホームの形式の違いにより二つのタイプがあります。上り線と下り線のホームが背中合わせになったタイプの「島式」（十駅）を基本的に採用しています。また立地条件などの制限を受ける箇所では、ホームが向き合ったタイプの「相対式」（五駅）を採用しています。



コンコース：駅の改札口とプラットホームとの間を人々が快適で安全に通ることができるスペース

沖縄のあたらしいシンボルとして

いよいよ八月十日、『ゆいレール』（二編一編成、定員一六五名）が開通し、沖縄に軌道交通がよみがえります。去年十一月から全線試運転を開始し、今ではすっかりまちの風景に溶け込んだ『ゆいレール』ですが、本格的に運行が開始されると、那覇空港駅から首里駅までの都市空間を二十七分の短時間で快適に移動できるようになります。

路面交通の影響を受けずに定時・定速で運行できる『ゆいレール』は、都市交通として県民のあたらしい「生活路線」になると同時に、地域振興のシンボルとしての「迎賓路線」でもあり、観光沖縄のあたらしい顔となります。

空港との連携によるネットワークの広がりが、通勤・通学・買い物等への利便性、生活コミュニティの活性化、渋滞緩和に伴う波及効果など、経済活性化の推進力としても、その期待は高まります。

さて、実際に『ゆいレール』を利用するためには各駅舎からアクセス（乗り降り）をすることになるわけですが、各駅舎の構内へは、地上から自由通路・コンコース階（二階部分）へ、コンコース階からプラットホーム階（三階部分）へと、それぞれ階段・エレベーター・エスカレーターを利用してあげられます。また、これらの昇降施設は、自由通路を渡って横断歩道橋としても利用できます。さらに駅によっては交通結節の為に交通広場など、その他様々な施設が整備されています。



県庁前駅とパレットくもじ2階の広場を結ぶ



ゆいレール車両内



駅構内入口にある券売機



駅構内の出入り口（改札口）

『ゆいレール』は、誰にでも安全で利用しやすい公共交通機関をめざして、バリアフリーに配慮した整備を行っています。主に次のような施設を備えています。その他、細かいところにも配慮した駅舎となっています。

通路 エレベーター（福祉対応）を自由通路とコンコースに設置しています。視覚障害者誘導ブロックと音声誘導システムを設置し、プラットホームまでの案内を行います。

便所 福祉対応トイレ（男女兼用）を設置しています。主要三駅（那覇空港駅・県庁前駅・首里駅）の福祉トイレは、人工肛門の方が利用でき、また、赤ちゃんのおしりを洗うことができる温水シャワーや脱臭装置付汚物入れが備え付けられています。車輪とホームとの段差、隙間の解消 車椅子乗降装置を各ホームに設置しています。



福祉対応トイレの温水シャワー



車両とホームとの段差や隙間を解消

いくらで乗れるの？『ゆいレール』

『ゆいレール』の運賃は、大人料金が初乗り二〇〇円、三キロメートルごとに三〇円を加算して那覇空港駅から首里駅までの全線（約十二、九キロメートル）で二九〇円となっています。小児運賃（六歳以上、十二歳未満）は、大人運賃を折半し、十円未満を切り上げ十円単位とした額（二〇〇円～一五〇円）となっています。

また券種には普通運賃のほか、通勤・通学用の定期、回数、団体割引、障害者などを対象にした特殊割引などがあります。定期運賃は一ヶ月、三ヶ月、六ヶ月の三種で、割引率（一ヶ月）は通勤定期が三八％、通学定期が六〇％、回数運賃の割引率は十枚一組の普通回数券で十五％、通学回数券で二五％、有効期限はともに六ヶ月です。特殊割引運賃は普通・定期ともに半額で、救護者も半額となっています。

通常の運賃のほか、バスとの乗り継ぎ割引運賃などについても検討中です。

運賃早見表

駅名	那覇空港	赤嶺	小禄	奥武山公園	壺川	旭橋	県庁前	美栄橋	牧志	安里	おもろまち	古島	市立病院前	儀保	首里
那覇空港	2.0km														
赤嶺	200														
小禄	200	200													
奥武山公園	230	200	200												
壺川	230	200	200	200											
旭橋	230	230	200	200	200										
県庁前	230	230	230	200	200	200									
美栄橋	260	230	230	200	200	200	200								
牧志	260	230	230	230	230	200	200	200							
安里	260	260	230	230	230	200	200	200	200						
おもろまち	260	260	260	230	230	230	230	200	200	200					
古島	290	260	260	260	230	230	230	230	200	200	200				
市立病院前	290	260	260	260	260	230	230	230	230	200	200	200			
儀保	290	290	290	260	260	260	230	230	230	230	200	200	200		
首里	290	290	290	290	260	260	260	260	230	230	230	200	200	200	

文章中及び表中の金額等は、運賃申請時点のものです。

都市へのやさしいアクセス（交通広場）

『ゆいレール』は、一般乗用車やバス・タクシーなどの交通（自転車も含む）との結節による利便性を確保するため、八駅（赤嶺・小禄・壺川・旭橋・県庁前・美栄橋・おもろまち・古島）において「交通広場」を設けています。特におもろまち駅は、国際通りを通過する中部系統のバスが運行本数の一部について折り返しをするため、他駅の交通広場よりも大きく整備されています。

交通広場をもたない、那覇空港を除く残りの六駅（奥武山公園・牧志・安里・市立病院前・儀保・首里）についても、隣接した道路において、バスやタクシーの乗降場を確保して利便性の向上を図っています。

また交通広場ではありませんが、各駅周辺の民間商業施設などを活用したシステム（パーク&ライド）について現在検討中であり、駅周辺地域以外からの乗り継ぎ需要についても確保できるよう努めています。



おもろまち駅からペデ橋を望む（完成予想図）



小禄駅の交通広場と連絡通路

営業時間と運行計画

『ゆいレール』の営業時間は午前六時～午後十一時三〇分で、運行間隔は、以下のように計画されています。

また台風（強風）時の運行については、乗客の安全輸送のため、次のように計画されています。

風速二十メートル/秒以上の場合 徐行運転
風速二五メートル/秒以上の場合 運転停止

運行間隔	
ピーク時	(8:00～9:00) 6分30秒間隔
早朝・深夜	(6:00～7:00) 15分間隔
	(22:30～23:00) 15分間隔
その他時間帯	(7:00～8:00)
	(9:00～22:00)
	7分30秒～12分間隔

『ゆいレール』の利用促進

現在『ゆいレール』は那覇空港から首里までを走りますが、よりよい交通ネットワークのため、バスの路線再編が行われており、『ゆいレール』開通と同時に実施される予定です。交通渋滞による経済損失全国上位の沖縄にとって、『ゆいレール』開通やバス路線再編により都心部における渋滞が緩和されることは、全体的にもよい波及効果があると期待されます。

さらに『ゆいレール』の利用促進を図るため、高速バスの首里駅結節の計画や、沿線道路における電線類の地中化（歩きやすい歩道空間の創出）、駅周辺案内板の設置など、さまざまな整備を進めています。

これらの整備のひとつとして、たとえば駅の「交通広場」や「連絡通路」などがあります。



駅周辺観光案内板



市立病院前駅の電線類の地中化イメージ

まちと人を結ぶ（連絡通路）

さらに『ゆいレール』による都市の移動利便性を高めるため、いくつかの駅には、駅舎から周辺施設などへ直接移動できる「連絡通路」を設けています。

那覇空港駅と那覇空港ターミナルビル、小禄駅とジャスコ那覇店、県庁前駅とパレットくもじ、市立病院前駅と那覇市立病院をそれぞれ直接結ぶ連絡通路、おもろまち駅とペDESTリアンデッキが現在整備されています。また、壺川駅と奥武山運動公園を結ぶ歩行者専用の連絡橋もあります。

今後、沿線開発や地域コミュニティの活性化などにより、駅の有効利用が進めば、駅そのものがそれぞれのまちの新しい顔として定着し、『ゆいレール』によるあたらしいまちづくりの可能性が広がります。



那覇空港駅と那覇空港ターミナルを結ぶ連絡通路



駅から直接、市立病院へ



県庁前駅とパレットくもじも連絡通路で結ばれる

